

原 著

## 剣道選手の性格特性 —全日本剣道選手権大会優勝者の場合—

### Characteristic Traits of Kendo Athletes. In case of National high skilled Kendo Athletes

氏 家 道 男\*, 太 田 昌 孝\*, 右 田 重 昭\*  
古 谷 洋一 \*\*, 小 森 富士登 \*\*\*

Michio Ujiie \*, Masataka Ota \*, Shigeaki Migita \*,  
Yoichi Furuya \*\* Hujito Komori\*\*\*

#### ABSTRACT

The purpose of this study was to clarify the character qualities of the Kendo athletes Subjects were 59 male Kendo athletes, 28 who have attended Japan national championship in 1970 to 1987(NKP) and 31 joined in Kendo club in Kokushikan university (SKP). There characteristic traits were tested by the characteristic inspection (Y-G characteristics test).Results of this study were summarized as follows;

1. Characteristic traits of high skilled Kendo athletes were showed D-type, which recognized sports man's character.
2. A small values of E-type were observed in all Kendo athletes.
3. Significantly difference for characteristic traits between NKP and SKP were observed in B-type.
4. From these results it is considered that the Kendo performance related to the characteristics traits in male.

*Key wards; Kendo athletes, Performance level, characteristics traits.*

#### は じ め に

スポーツや武道の競技力の向上に関しては、運動能力的要素や知覚的要素もさる事ながら「克己」「集中力」「勝利達成欲求」などといった精神的因素、即ち心理的側面に大きく影響されることは、周知の事実である。

特に、実際の競技場面における勝敗の決定は技能的及び体力的側面によるより、精神的側面の比重が極めて高いことは関心の深いところでもある。その精神的向上度、つまりトレーニングによ

る心の変容を把握することは技術や体力に比較して、なかなか困難ではあるが、大変重要になる。このような精神的側面に関しての科学的裏付けとなる、ひとつの評価方法として個人の性格特性及び特徴が調べられている。

すでに、報告されている剣道選手の性格特性に関する研究をみると大学生剣道部員の性格的特徴は、劣等感意識が少なく客觀性に優れているなど典型的なスポーツマン的性格を持つものが多いことを報告している<sup>1)</sup>。精神的健康度という面からみると競技力の上位のものほど高く下位のものほ

\* 国立大学体育学部 (Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

\*\* 国立大学政経学部 (Faculty of Economics, Kokushikan University)

\*\*\* 国立大学武徳研究所 ( Institute of Budou and Moral Education, Kokushikan University)

ど低い傾向にあることを示唆している<sup>4),5)</sup>。また、学生剣道界において団体・個人ともに輝かしい戦歴を残し、超一流といわれる大学生の個人的性格特徴をみると、男女を問わず情緒的に安定し、社会的適応力にも優れ、活動的で対人関係も良く、安定積極型の傾向をみせている<sup>3)</sup>。このことは個人の持つ性格特徴が、そのまま競技力としての精神力と深い関わりのあることを示している。この様に、これまでの剣道選手の性格特性を明らかにしたものとの対象は大学生が主であり、一般社会人についての知見はほとんど報告されていない。

そこで、本研究は剣道界において最も技能水準の高いとされる全日本剣道選手権大会優勝者を主な対象として、矢田部・ギルホード性格検査を実施し、性格特性を調査した。

その結果から、個人の性格特性が競技力にどのような関わりをもつかを明らかにし、実際の競技場面において、より有効的な指導を行なう為の基礎的資料とすることを目的とした。

## 研究方法

### I. 対象者

本研究の対象者は、昭和45年～昭和62年までの

全日本剣道選手権大会優勝者（以下全日本優勝者という）14名、ベスト4以上の入賞者（以下全日本上位入賞者という）14名、及び全日本学生剣道団体優勝の経験者を含むレギュラー（以下全日本学生選手という）15名、選手経験のない剣道部員（以下大学生剣道部員という）16名の計59名とした。

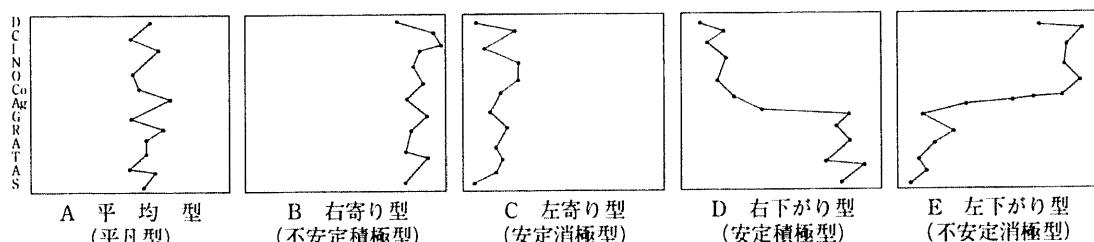
表1 YG性格検査で調べられる性格特性

	性格尺度	性格特性の説明
D	depression	抑うつ性
C	cyclic tendency0	回帰性傾向
I	inferiority feelings	劣等感
N	nervousness	神経質
O	lack of objectivity	客観性がないこと
Co	lack of cooperativeness	強調性のないこと
Ag	lack of agreeableness and aggressiveness	愛想のないこと
G	general activity	一般的活動性
R	rhythymia	のんきさ
T	thinking extraversion	思考的外向
A	ascendance	支配性
S	social extraversion	社会的外向

※辻岡美延；YG性格検査実施手引きより引用

表2 YG性格検査プロフィールの類型

尺度 タイプ	情緒安定性 D C I N	社会適応性 O Co Ag	向性(衝動性・活動性・主導性) G R T A S
(A) 平均型	平 均	平 均	平 均
(B) 右寄り型	不 安 定	不 適 応	外 向
(C) 左寄り型	安 定	適 応	内 向
(D) 右下がり型	安 定	適応又は平均	外 向
(E) 左下がり型	不 安 定	不適応又は平均	内 向



※辻岡美延；YG性格検査実施手引きより引用

## II. 性格特性の調査方法

各選手の性格特性については、矢田部・ギルホード性格検査（以下Y・G検査という）を用いて実施した。

Y-G性格検査は表1に示したように12の性格特性を0~20点の各得点により、全体的プロフィール（表2）を書き性格類型を決定するものである。

各群の性格特性の分析は、平均値及び標準偏差値を求め、性格尺度別に得点ごとにプロットし、性格プロフィールを作成した。

## 結果と考察

表3 全日本出場選手2群（全日本優勝者・上位入賞者）と大学生選手2群（全日本学生選手・大学生剣道部員）のY-G検査各性格尺度別の平均値と標準偏差

	全日本 優勝者	全日本 上位入賞者	全日本 学生選手	大学生 剣道部員
	M +SD	M +SD	M +SD	M +SD
D	6.00 4.67	3.14 3.13	8.40 6.51	9.88 5.28
C	6.64 6.28	7.00 4.54	11.20 5.10	11.30 4.00
I	5.14 4.57	4.57 2.95	7.60 4.94	7.81 5.26
N	7.57 4.18	6.64 3.89	9.07 4.77	8.38 4.40
O	4.64 3.99	4.86 3.51	8.13 4.24	9.69 3.94
Co	4.86 3.96	4.36 2.79	7.13 3.16	8.19 3.12
Ag	10.70 3.70	10.10 4.40	11.40 4.70	12.20 2.40
G	13.80 5.10	12.60 4.50	11.50 5.20	13.10 3.30
R	9.07 4.71	8.71 5.38	13.10 4.00	15.10 3.50
T	9.71 4.08	12.00 3.60	9.20 3.61	10.40 4.70
A	10.10 5.30	9.93 5.33	10.80 3.80	9.81 4.21
S	13.20 5.20	10.50 5.70	13.90 4.50	13.50 4.80

## I. 競技力と性格類型の関係

表3は、全日本選手権出場者の2群と大学生剣道選手2群のY-G性格検査結果を各性格尺度別に、平均値及び標準偏差値で示したものである。

また、表4は表3の結果に基づいてA類～E類の5つに分類し、さらに各類を典型・準型・混合型に分別して、その人数と全体に占める割合を示したものである。

全日本優勝者群についてみるとD類（42.9%）が高い値を示し、次いでC類とB類が同値（21.4%）を示し、A類（14.3%）が最も低い値を示した。

また、上位入賞者群ではC類とD類（35.7%）が最も高く、次いでA類（21.4%）でB類（7.1%）は最低値を示した。

一方、全日本学生選手群では、B類（33.3%）が最も高く、次いでD類とA類が同値（26.7%）で、C類（13.3%）が最も低い値であった。

大学生剣道部員群においては、B類（43.7%）が特に高い値を示し、次いでD類（31.3%）、A類

表4 Y-G性格検査各群別の類型一覧表

		全日本 優勝者	全日本 上位入賞者	全日本 学生選手	大学生 剣道部員
A類 平凡型	A	2		3	1
	A'	14.3%	1	21.4%	
	A''		1	2	3
B類 不安定 積極型	B	3		1	
	B'	21.4%	1	7.1%	1
	AB		2		2
C類 安定 消極型	C	3	1	5	2
	C'	21.4%	1	35.7%	
	AC		1	3	1
D類 安定 積極型	D	6	5	5	2
	D'	42.9%	1	35.7%	2
	AD			1	
E類 不安定 消極型	E	0		0	
	E'				
	AE				

(25.0%) の順であった。

全体では、各群共通して、E類に属する者が1人も認めることが出来なかつた。

これらの結果から、全日本優勝者群ではD類の数値が極めて高く、特に典型的D型に集中している。また、上位入賞者群においてもC類と同値だが最も高い傾向にあるのに対し、全日本学生選手群、大学生剣道部員群ではB類が最も高い値であることが認められた。

これは、全日本出場選手における性格特性としてみた場合、精神的、情緒的に実に安定している状態で、かつ社会的適応も良く活動的で対人関係にも優れていることが推察される。このようなことから、剣道競技者は競技力の優れている選手ほど典型的スポーツマン的性格、つまり最も理想的な人格を持ち合わせ内面的状態及び精神的要因が特に安定していることが認められる。

それに比較して大学生では、2群とも活動的、外向性の面では全日本出場選手2群と共通しているが、情緒的に不安定で社会的適応力にも乏しいことが示唆される。

この様に、先行研究の報告「大学生剣道部員はA型、D型傾向が強い」とは、異なる結果が認められているが、表4から確認できる様にA類に近いB類、つまりAB混合型に偏っていることからすれば、調和的適応性を持ち合せた平均型に類似しているとも言える。

さらに見逃せない点は、全日本出場選手及び大学生選手群とともに、D類の反対傾向を示すE類が皆無であった点である。これは、先行研究の結果でもまったく同様な傾向を示しており、特筆すべき点である。

これらのことから、E類つまり不安定消極型と言われ、情緒的に不安定で非活動的であり、協力性に欠け内向的傾向を有する者は、一般的に剣道選手には極めて少ないという特徴が示唆された。

## II. 性格特性の競技力別比較

本研究では、精神的要因がその競技力とどのよ

うな関係にあるのかを明確にすることが目的である。そこで、全日本出場選手を全日本優勝者と上位入賞者、大学生選手を全日本学生選手と大学生剣道部員別に12項目の性格尺度の平均値を客観的に得点化し、同一スケール上にプロットしたのが図1、及び図2である。

この図から明らかなように、全日本出場選手の2群間の比較では互いに右下がり型の傾向にあり、各性格尺度の比較においてはD：抑うつ性、T：思考的外向、S：社会的内向において僅かに異なる傾向がみられたが、統計学的に有意な差は認められなかった。

同様に、大学生選手と部員間とを比較したが、共に平均型傾向にあり、性格尺度12項目の全てにおいて顕著な差異は認めることが出来なかつた。このように競技水準が同等な場合においては、精神的要因に顕著な違いがないことが裏づけられた。

そこで、競技水準の異なる群間、つまり技能的水準に差があるとされる全日本出場選手（優勝者群及び上位入賞者群）と大学生選手（選手群及び部員群）の精神的要因の比較を示したのが図3である。

両群において著しい性格尺度の差が認められたのは、情緒的側面と社会的適応の側面であった。剣道の技能的水準に関しては、全日本出場選手群が大学生選手群に比べて数段上位であることを考え合わせると、ここに示された両群間の性格尺度の差異は、直接技能レベルの高さに対応した精神力の差を示していると考えられる。

したがって、情緒的に安定し、物ごとを客観的にとらえ、協調性のある性格を有することが精神的な競技力と密接な対応関係にあることが示唆される。これは、従来から報告されていることがあるが、本調査で改めて確認された。剣道の技能的水準から考えると、両群にこのような明確な性格特性の違いが認められたことは、剣道の競技力の中で、精神的側面の占める割合の大きさを確認するものであった。

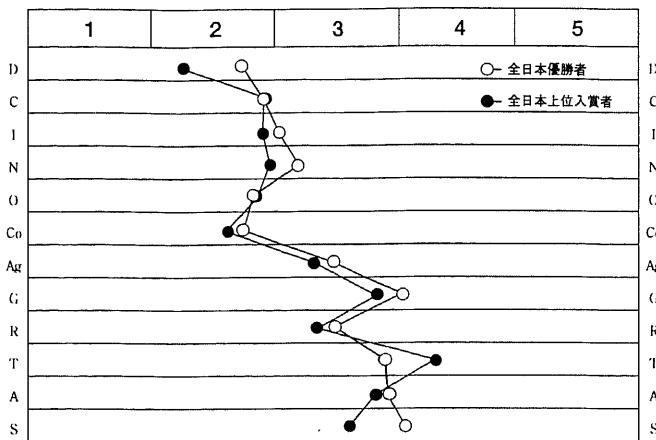


図1 全日本優勝者と全日本上位入賞者のY-G性格検査プロフィールの比較

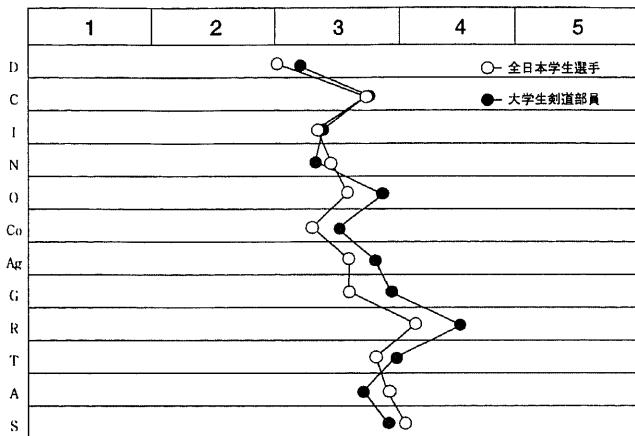


図2 全日本学生選手と大学生剣道部員のY-G性格検査プロフィールの比較

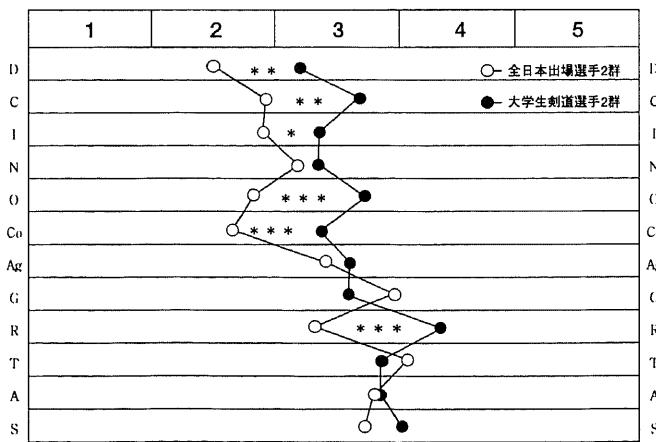


図3 全日本出場選手2群と大学生選手2群のY-G性格検査プロフィールの比較

これらのことから、精神的競技力（精神力）は剣道技能と同様、その鍛練の結果として際限なく高水準に達し得ることが示唆される。しかも、全日本出場選手の中で優勝者群と上位入賞者群を比較した時、各性格尺度において有意な差が認められなかったことからも、精神的な競技力の鍛練が極めて重要であることを強く示唆するものであった。

### まとめ

本研究では剣道選手の競技力と精神力の一側面である性格特性との関係を明らかにするため、全日本出場選手2群と大学生選手2群を対象にY-G検査を実施した。その結果、次の様な知見が得られた。

1. 剣道競技者は、競技力の優れている選手ほど典型的スポーツマン的性格（D類・安定積極型）を有する傾向にあることが示唆された。
2. 一般的に剣道選手はE類、即ち不安定消極型を有する者は極めて少ないという特徴が示唆された。
3. 全日本出場選手2群間及び大学生選手2群間における各性格尺度は、競技水準が同等な場合は精神的要因、つまり性格特性においても差がないことが裏づけられた。
4. 全日本出場選手と大学生選手の性格尺度の差は、直接技能水準の高さに対応した精神力の差異を示していると考えられる。
5. これらのことから、情緒的に安定し、物ごとを客観的に判断すると共に、協調性のある性格を有することは、競技力を高めることと密接な対

応関係にあることが示唆された。

引用・参考文献

- 1) 藤善尚憲・他：スポーツマン的性格について（1），  
体育学研究，10（1），217, 1965
- 2) 藤善尚憲・他：スポーツマン的性格について，体育  
学研究，11（2），9-6, 1966
- 3) 小林晃夫：スポーツマンの性格，杏林書院，1986
- 4) 辻岡美延：Y-G性格検査実施手引，日本心理テス  
ト研究所，1979
- 5) 滝山将剛・他：スポーツマンの性格特性，国士館大  
学研究所報，1, 19-30, 1980
- 6) 佐藤宣践：柔道選手の性格特性に関する研究，武道  
学研究，12-1, 39-40, 1980
- 7) 小野沢弘史・他：大学柔道部員の性格特性に関する  
研究，武道学研究，13-1, 68-69, 1981
- 8) 佐藤成明：大学生剣道部員の性格特性について，武  
道学研究，17-1, 6-7, 1985
- 9) 佐藤成明：大学生剣道部員の性格特性について，武  
道学研究，18-2, 2, 23, 1986